



いなほ

稲積神社社報

第16号

平成13年11月1日発行



御神田いなほとコスモス

一日、三日、十五日には、
神社にお参り
しましょう

八月	二月	一月一日	十二月三十一日	十二月二十五日~二十七日	十一月	十一月十五日	毎月
針供養祭	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日
天満天神社	初節分祭	新年祈願祭	大古神札焼納式	伊勢神宮新穀感謝祭	七五三祈願祭	古神札焚上げ祭	毎月一日、三日、十五日





生氣興隆

宮司 根津泰昇

「いなほ」十五号で『生氣興隆』について大筋を記述いたしました。今号では詳細を記したいと存じます。

「生氣」とは、「活力」とも言い、有機体の生命力を表わしています。故に、人間は神様より生命を授かった時点で「生氣」も宿ります。

『生氣興隆』は、誕生期・幼年期よりも、中年期、成熟期へと進むに意気盛んな時期、働き咲きと言われるものこの時期を表します。また生活の変化にも微妙に現われます。例えば、建築、結婚、契約、開店、旅行等の行動を起す時に古と異なるか、凶と異なるかの現象が働くのはその表れです。現世で生きてゆく過程にも、苦しみ、辛さ、厳しさを経験し、その半面喜び、楽しさを味わいます。この表れが「生氣」の象意作用を受けている証です。

ではどのような行動を執ることにより凶を排除し、吉運を寄せつけることが出来るかと言いますと、事柄を起そうとしていく時、また起きた時この時点で「生氣」が活動を始めます。よって「生氣」を清浄にすること、つまり神前

において心身を祓清めて「生氣」の魂鎮をすることです。その祓清めた「生氣」を「興隆」させることにより、結果として道徳の成立・完成への成就の道が開かれてゆくこととなります。成就のご神徳を受けられた後は、興隆した「生氣」を元の穏やかな「生氣」に戻す為に、再び心身を祓清め、魂鎮を行うことが大切で、このように、神様から授かった生命である「生氣」を興隆させたならば、神様のご神徳で鎮めることが肝要です。これが祓い清め、魂鎮めの神事です。

『生氣興隆』を盛んにさせる為に九星学（生年月日を基本として運勢を判断する学問気学ともいいます）を使うことが可能です。第十四号にも記述いたしました。盛運期、平運期、衰退期がございますので、より活発に「生氣」が働くこととされている時期を選び行動することも必要なことです。

「わかえ」信仰により『生氣興隆』をすることもできます。「わかえ」信仰とは、御本殿の「神御柱」を築き固めてい

る「御砂」の総称です。「わかえ」の名付けは「出雲国造神賀詞」の中に、「天皇陛下の長久を言寿ぐ、弥若殿若敷坐志氏」（弥々若々しく若らきております。御砂、御石取りは、吉方位の方位神の太気に触れながら邪気を祓い、家運隆昌、商運繁栄、身体堅固、運氣上昇、土地清め、方災除等を祈願する）ための己が行動するひとつでもあります。

以上のように『生氣興隆』を図る為には、身心を祓い清め、魂鎮の神事を行うことであり、また九星学を使いより良い時期を選び行動を起すことです。「わかえ」信仰により、邪気を祓い運氣上昇を図ることも必要なひとつです。

「生氣興隆」させる行為、行動は、「神」を信じ己が行動することにより大神様からお授けになるご神徳であります。

祖神の教

神は信ずるが故にあるのではない、信じても信じなくてもある、ただ信ずる人にだけそのあることがわかる

（注）当神社では、「わかえ」信仰で吉方位に向くことが出来なかつた崇敬者の方々のために御本殿で祓い清めた御砂・御石を北参道の甲子社に奉斎しております。

外郭団体紹介

当神社には正ノ木大祭を始めとして、神社の活動に奉仕する団体があります。

その中で、今年度、役員改選で新体制になった会がありますので改めて団体名と代表者を御紹介します。

稲積神社甲府伊勢講
講元 今橋 保氏

崇敬青年会

長 佐藤 久良氏
稲積神社ソフトボール部

監督 高山 安夫氏
稲積睦会

長 長瀧 英規氏
稲積神社雅楽会

長 久礼 昭義氏
敬神婦人会

長 横森満洲子氏

各団体とも会員募集中です。どなたでも入会できますので、直接会員又は神社にお尋ね下さい。

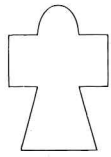
大 おおはらえ 祓

大祓は、一年を二つに分け、六月と十二月の晦日に大祓式を行ない、それぞれの半期の罪歳を祓う神事である。

形代で身を撫で息を吹きかけるのは心の穢を追い出す事を意味し、自分の穢を人形に移し、人形をわが身の代わりにして清めてもらうのです。

神社で受けた形代に、家族の名前を書き、それぞれ身を撫で清い心に立ち帰るようお願い、息を三度吹きかけます。

十二月三十一日、大祓の式の始まる前までに、形代に初穂料をそえて、社務所にお持ち下さい。



古いお神札の納め方

旧年中の古いお神札等は、神社で神事を行ない祓い清めたのちに焼納しますので近くの神社にお納め下さい。焼納祭の日時は神社により異なります。神札は神社のものであり、いまでもこの神社のものでも構いません。また御神矢（破魔矢）、熊手などの縁起物や神棚なども一緒に神社に返納します。

平成十四年度

祈願提灯奉納のすすめ

古来より清浄なる火に神宿ると言われております。

この故事にちなみ、当神社では、ちようちんに住所、氏名、家内安全、商売繁昌祈願のどちらかを書き入れ御神前に掲げ一年の御繁栄、御幸福と共に社頭の股賑を図っております。

宏大無辺なる稲荷の神様の御加護を戴く日々をお過ごしになるよう「祈願提灯」の奉納をお勧め致します。

祈願提灯初穂料

一灯 一年間 七千円以上

祝祭日には

国旗を上げましょう!!

神社社務所でも頒布しております。

国旗セット

(国旗、竿、金色冠頭、取付金具、収納袋付)

頒布価格 一、五〇〇円

職場体験学習

去る七月十六日、今年で三年目となる、山梨大学附属中学校生徒の職場体験学習の報告です。

神社で学んだ事

梨大附中 藤森 仁

僕は最初神社のイメージを暗い所と思っていました。木が多く、昼でも暗い。そんなイメージがありました。しかし実際神社の仕事をしてみると、僕の予想とはちがう所がいくつかありました。

神社に着くといきなり瘡子社と呼ばれる所の祭りに参加しました。宮司さん達といっしょに参加しました。瘡子社とは、医療にまつわる神様です。いきなりいい体験が出来ました。

次にしめ作りをしました。最初はすぐ終わるかなと思っていましたが、単純作業はとても苦痛でした。毎日この作業を行う方々を僕はすごいと思いました。

稲積神社には、にわとりが十数羽います。にわとりは昔から神の使いとして神社にはよくいるそうです。しかしい

ざなきだと、とてもうるさくて全然集中できないのですが、神社の人はその中でも仕事ができるのだから僕には出来ないと思います。昼食をとってからお水取場と呼ばれる所のそうじをしました。水コケがふちやくしてたので、力いっぱいお水取しました。そのかいあってお水取場はきれいになりました。

稲積神社では、雅楽をえんそうするそうです。そこで、雅楽をえんそうしてもらいました。よく和風の結婚式で流れてくる音楽が雅楽です。聞いてると眠くなってくる音楽でした。そこで僕も横笛をふかせてもらったのですがふけません。ふけるようになるには半年から一年かかるそうです。

一日という短い間でしたが、神社という所で仕事をし、心を清める事が出来たと思います。それにより神社という所のイメージが暗い所から心を開くする所へと変わった気がしました。

「稲積神社について」

梨大附中二年

山本 啓

今日、僕は稲積神社で貴重

な体験をしました。僕は神社にあまり縁がないので神社というものをまったく知りませんでした。そこで今日の体験学習では、前から興味もあり、やってみたい仕事でもあった神社の仕事をやろうと思いましたが、

神社ではしめを折る仕事とお水取場の掃除をやらせていただきました。しめを折る仕事は単純ながら根気のいるものでした。僕はしめを折りながらこれを毎日やっている神社の方をすごいと思いました。

お水取場では、水コケをタワシで取る仕事をしました。これは簡単にできると思っていました。コケはなかなか取れず大変でした。その他に、神社職員の方に神社にまつわるいろいろな話を聞かせて

いただいたとても充実した一日を過ごせました。神社の人たちはとても親切で僕達に雅楽を聞かせてくれました。雅楽はクラシックよりも歴史が古い音楽で、聞いた感想は、はく力のあるもので、耳にずっと残るような音楽でした。

この体験学習を終えて僕はとても神社が好きになりました。

神社本庁並山梨県神社庁 設立五十五周年記念表彰 授賞者紹介

本庁表彰

責任役員 塩島喜代則氏
責任役員 丹澤 正臣氏

神社庁表彰

総 代 小尾 武氏
婦人会副会長 塩島 春子氏
婦人会副会長 丹澤起恵子氏
崇敬青年会 近藤 芳男氏
稲積睦会々長 長瀧 英規氏
ソフト部監督 高山 安夫氏

就任

全国氏子青年協議会理事に当神社崇敬青年会々長佐藤久良氏が就任されました。

勲三等瑞宝章受章

山梨県神社総代会々長、当神社総代、宮川睦武氏が本年春の叙勲に際し勲三等瑞宝章を受章された。その祝賀会、感謝の集が、去る九月二十二日、アイメッセ山梨で開催された。当日は県内外の関係者二二〇名もの多勢の方々が

お祝いにかけつけた。宮川氏には、これからも健康にご留意され、ますます社会に奉仕、貢献されますことをご期待申し上げます。

職員紹介



権瀬宜 伊藤裕之

二十一世紀のスタートという意義深い本年二月、稲積神社の権瀬宜を拜命致しました。今、わが国は経済が低迷し、長引く不況不景気の中で、リストラによる人員削減、企業倒産など厳しい時代に直面しております。また、外に目を向けると、アメリカで起きた大規模なテロ事件をはじめ、信じられないような事件・事故が多発しております。このような現実を踏まえ、今こそ私達は八百萬の神々のご神徳を仰ぎ、心の浄化に努め、人間としての、あり方、真のモラルを問い直すことが必要ではないでしょうか。心のゆとり、心のやすらぎを大切にし、世の中全体を良い方向へ変えていかなければならないと痛切に思います。

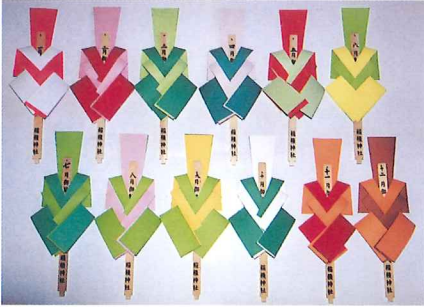
私も稲積神社へのご奉務を通して人間修養に励み、少しでも社会のために尽くすことができるよう精進して参りたいと心に誓っております。

宮司様をはじめ、皆様方どうぞよろしく御指導御鞭撻のほどお願い申し上げます。

月始祭・月次祭 かさね御幣

「かさね」とは、衣の表裏のことを指します。古人等は季節ごとに、衣の重ねの色を変えて、邪気を祓い、新たな甦りを計り、森羅万象に感謝する信仰がございました。
当神社では、月始祭・月次祭に月毎の願事を祈願いたしましたかさね御幣を頒布しております。

月毎のかさね御幣を受けられましたら、年始に神社にお納めいただき、その年の年御幣をお受け下さい。其の年の神璽（お守りいただく神様）となります。



大切にしたい家族の絆 日本のこころ (全国敬神婦人連合会に 参加して)

敬神婦人会副会長
丹澤起恵子

緑濃い木立ちの中をくぐり抜け、中央高速、談合坂に着いたのが、出発して一時間経ち、一休止する。空も雲も秋の色になり秋風がそでをかすめていく、澄みきった朝の空気を深呼吸して背すじをのばす。稲積神社のワゴン車で敬神婦人会長さん他六名は横浜へと向かう。中央高速からいつの間にか首都高速へと入り目に付いたのが神社本庁。明治記念館を横に見ながら一時的地へ走り、十一時すぎ横浜に到着する。

会場の受け付けで神奈川の県花の山百合をプリントした手さげバックを手渡ししてくれ、それを各々で持ち、会場パシフィコ横浜国立大ホールに入る。シートのワイン色がとてもおかげけし、広々とした会場。全国一、二を競う大会場とのこと。その会場に腰をおろし、優雅さを感じた。



時間になり、第二十五回全国敬神婦人大会が開会した。初めに、長い間全国敬神婦人会長をしていた東園貞子様の御冥福を祈り黙祷を捧げた。二十三年の長きに渡り敬神婦人の歩むべき道を自からお示しになられたようだ。
本大会は、常日頃氏神さまのご奉仕を中心に、家庭祭祀の振興、社会福祉活動、家庭での教育を中心とした教育の正常化に尽してきた。物豊かで心貧しいと言われ、心痛むような青少年の犯罪が次々と発生している。
この国の行く末を憂い、敬神婦人に課せられた責務の重大さを実感し手を携え次世代に先人が誇りとしてきた日本人の心を伝えゆくため更なる活動を展開してゆかねばならない。本大会にあたり社会の清浄化に努めて参る覚悟を、ともに心に誓った。緊張のひとときを過ぎた後、ソプラノ歌手島田祐子コンサートに入った。童謡にみる日本の心、童謡メロディー、トークを混えながら私達の年令なりの歌を披露して下さった。
最後に天皇陛下のご健康と

囲碁大会出場

第一回山梨県神社関係者囲碁大会が、去る八月二十一日山梨県神社庁二階会議室にて行なわれた。

この大会は、県内神社関係者の親睦を図り、併せて青少年の健全育成を図る事を目的として行なわれた。対局方法は一般の部一チーム三名の団体戦、参加十一チーム、青少年の部は個人戦で五名が参加して行なわれた。

当社からは、一般の部に二チーム出場し、Aパートに青柳栄治、坂本高雄、猪俣春男の各氏、Bパートに久礼昭義、石山博、山口宣貞の各氏が出場し見事Aパートは準優勝、Bパートは第三位の好成績を納めた。

命継ぐ食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり
正ノ木稲荷大明神
稲積神社
甲府市太田町公園内鎮座
電話 (055) 233-5573
FAX (055) 226-0787

しめ飾セット

正月用しめ飾セット当社にて頒布しております。
(しめ飾セット)

- 御年神札、三宝荒神、しめ、神棚十二枚、玄関三枚、床間二枚、人形二枚綴十組、屋敷神四枚

初穂料一セット三千元

女		男		前厄		大厄		後厄	
13歳	13歳	32歳	41歳	S四十六年	S三十七年	S四十五年	S三十七年	S四十四年	S三十七年
19歳	25歳	33歳	42歳	S四十五年	S三十七年	S四十四年	S三十七年	S四十四年	S三十七年
37歳	61歳	34歳	43歳	S四十四年	S三十七年	S四十四年	S三十七年	S四十四年	S三十七年

数え年とは、満年齢に誕生日前には二歳、誕生日後には一歳を加えた年です。

平成十四年厄年表(数え年)

来年は青少年の部出場と今年以上の成績を期待します。この大会はどなたでも参加できますので囲碁に興味のある方はお申し込み下さい。